

ばねと鎖錠用のゴム製リングとを押し込むことによってキャップを閉じると、留め金はカージオイド形の溝の分岐部のうち的一方を経て円弧の上端に到達し、そこからばねの僅かなスプリング・バックによって中央部の鎖錠位置に到達する。逆に、ロックされたキャップのタンク・カバーをちょっと押し込むと、留め金は再び周辺領域において上方へ移動し、その領域に対応する曲線の下部中央位置において、その曲線に沿って摺動するので、スリーブとピストンとは、カージオイド形の溝の上部中央位置と下部中央位置との間の距離に相当する区間だけ、軸方向に相対移動することができる。これはゴム製リングを弛緩させるのに十分であるので、ゴム製リングは給油管の溝から離脱し、従ってタンク・カバーの開放が可能になる。

【0010】

本発明の上記以外の長所、特徴および細目は、以下における実施例の説明および図面から明らかになる。

【0011】

【発明の実施の形態】

本発明のキャップは、車体 1 に、または図に示すように給油管 3 の外側拡張部 2 に、ヒンジ 4 によって旋回可能に連結されたタンク・カバー 5 を含んでいる。タンク・カバー 5 の内側には閉鎖部材 6 が取り付けられている。閉鎖部材 6 は、タンク・カバー 5 をちょっと押し込むだけで、給油管 3 の、内側へ段付き部を形成するように設けられている開口部 7 の閉鎖を引き起こす。その際この押し込みでこの閉鎖状態の鎖錠も行われる。図 2 に示す閉鎖状態において、同様にタンク・カバー 5 をちょっと押し込むだけで解錠を行うことができるので、タンク・カバーは再び簡単に外側へ開く。

【0012】

外側拡張部 2 は実際には絶対必要というものではなく、タンク・カバー 5 を車体 1 に直接連結する場合には、実際、無用のものとなるが、給油管 3 の外端部には、この外側拡張部 2 に隣接して円筒状の拡張部 8 が設けられている。拡張部 8 の底面 9 には、シールされるべき本来の開口部 7 が位置する。タンク・カバー 5 にはスリーブ 10 が固定されている。このスリーブ 10 の内部には、ピストン・